

<連載⑤>



クルーズ客船のメッカ 「マイアミ港」



大阪府立大学船舶工学科講師

池田良穂

最近日本でも、クルーズの話題に事欠かない。商船三井客船の1万8千トン級新造クルーズ客船の新造、日本郵船の3万トン級クルーズ客船運航計画、神原汽船の1万8千トン級クルーズ客船による南太平洋クルーズ構想等々。いよいよ、日本にもクルーズというものが1つのレジャー産業として定着しそうな雲ゆきである。

現在、世界的なクルーズブームで、超大型のクルーズ客船（4万総トン以上のものが目白押しである）やユニークなクルーズ客船（帆装クルーズ客船、極地探検客船等）が続々と建造されつつあることは周知の通りであり、その大部分はカリブ海でのクルーズに投入されている。1960年代末から、急速にのびてきたカリブ海でのクルーズ産業の実体を是非この目で見てみたいというのが、筆者の長年の夢であったが、この3月にこの夢がやっと現実のものとなった。

カリブ海クルーズの一大拠点となっているのは、アメリカのマイアミである。冬期も温暖なフロリダ半島南端のこの町は、アメリカでも有数の高級リゾート地となっており、海岸線には豪華な別荘が軒を並べており、これらの別荘を見て回るツアーまで出ている。そして、そのマイアミの町の一角に、マイアミ港があり、カリブ海クルーズの客船たちの多くがここを起点にして活躍している。

特に週末の金、土、日曜日の夕方には、大型のクルーズ客船が隊列を組むようにしてクルーズに出港していく。この種の写真を、マイアミに出掛けた友人から見せられるたびに、是非ともマイアミに行ってこの目でその光景を見てみたいと思ったものだった。

3月5日、木曜日の深夜、筆者はこのあこがれの地マイアミの空港に降り立った。そして、翌朝、夜が明けるのももどかしく、マイアミ港へとタクシーを飛ばした。やがて港が見えはじめ、次々に大型のクルーズ客船の姿が目に入ってくる。なんと、6隻のクルーズ客船が1本の岸壁にずらりと並んでいる。まさに、客船ファンとしては感激の一瞬であった。対岸のワトソンパークまでタクシーで行き、夢中でカメラのシャッターを切った。そして、一通り撮り終わり、ファインダーから目を離して、ようやく落ち着いて周りを見渡すことができた。空にペリカンがゆうゆうと飛んでいるのが、いかにも奇妙な印象であった。

港湾局へ出向きマイアミ港の見学をさせてもらい、続いてカリブ海クルーズ運航会社の最大手であるロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインを訪問し、最近のカリブ海クルーズの現状や同社の今後の計画等の話を伺った。大手の運航会社はい

ずれも強気の経営姿勢で、この会社も7万5千総トンのクルーズ客船2隻を発注済みであり、社長の意向ではさらに1隻追加建造したいとのことである。定員2,500名の大型クルーズ客船を3隻同時に運航し、集客にも自信をみせている点は、クルーズがやっと芽を噴きつつある日本の現状からするとうらやましい限りだ。3隻目を建造すれば、極東へのクルーズも検討するとのことだった。いよいよ、カリブ海で大きく育ったクルーズ事業が、世界的な規模に一段飛躍する時が来ているのかもしれない。

夕方、いよいよ6隻のクルーズ客船が次々と出港していく。細い水路を一列縦隊で進むさまは、正に圧巻である。しかも、ほとんど満船とのことだから、金曜日だけで4,000～5,000名の人々がカリブ海クルーズに出掛けていくわけだ。

土 曜日の朝、再びワトソンパークに出掛けた。またまた、6隻のクルーズ客船がずらりと並んでいた。もちろん、昨日の船とは違う船である。1週間または3日間のカリブ・クルーズから早朝に帰港し、乗客をおろしたところである。客船の船腹には、油の補給船が着いている。これらの船も、正午すぎから再びお客を乗船させ、夕方には再びカリブ海クルーズへと出港していく。中でも、現在世界最大の客船であるノルウェー(元フランス)、

がいかに堂々としているのが印象的であった。

翌日、日曜日には、まだ暗いうちからワトソンパークへ出掛けた。この日の夕方に、筆者が乗船するクルーズ客船ソング・オブ・アメリカがマイアミ港に帰港するのを出迎えるためである。ソング・オブ・アメリカを先頭に、6時頃から、クルーズ客船が次々に入港し、8時すぎには客船桟橋も一杯になった。今日は、7隻のクルーズ客船の列である。

すなわち、毎週末に計19隻ものクルーズ客船が、お客を満載してクルーズに出港していくこととなる。この他に、毎日バハマへのディ・クルーズを実施している客船もこのマイアミ港を使用している。アメリカでのクルーズ事業が一大レジャー産業として着実に根をおろしつつある様を実感できた。

日本でも、このような定期クルーズが実現できないものであろうか。瀬戸内海や沖縄等は、日本近海のクルーズ事業には適した場所のように思われる。また、東京等の大都會の港からクルーズを出すという思想はすてて、航空機とタイアップした形の新しいクルーズの開発が日本でも必要であろう。石垣島、グアム、マニラ、香港、シンガポール等を起点とした日本のクルーズ客船運航も検討に値するのではなかろうか。



マイアミ港に並ぶクルーズ客船